

新たな広域道路ネットワークの形成に資する
八代・天草シーライン実現に向けての
要 望 書



※写真は民間協力期成会により作成されたイメージです。

令和4年11月

八代・天草シーライン建設促進期成会
八代・天草シーライン建設促進市議会議員連盟
八代・天草シーライン建設促進民間協力期成会
天草・八代シーライン建設促進民間期成会

新たな広域道路ネットワークの形成に資する 八代・天草シーライン実現に向けての要望

熊本県の八代地域、水俣芦北地域、人吉球磨地域及び天草地域で構成される環八代海圏域は、九州の中心に位置し、九州縦貫自動車道や南九州西回り自動車道、九州新幹線の整備による交通基盤の充実と、重点港湾である八代港の機能の拡充が図られ、陸路・海路の要衝として、近年、物流・人流の拠点としての役割に対する期待が高まっております。

このような中、平成28年熊本地震や令和2年7月豪雨では、広範囲で道路が被災し、地域住民の安全・安心な生活が脅かされ、物流などの経済活動にも多大な影響が生じたところです。

八代-天草間については、唯一の公共交通であった航路が廃止されており、宇土半島から迂回する国道266号があるのみとなっております。今後、熊本地震や令和2年7月豪雨と同規模以上の災害が発生し、国道266号が不通となった場合に、住民の命をつなぐための人や車両の派遣、機材、緊急物資の搬送などが困難となり、長期間の孤立や被災者支援、復旧対策などの大幅な遅れが強く懸念される所であり、天草地域のセーフティネットとしての代替路の確保が喫緊の課題となっております。

他方、八代港においては、海外からの大型クルーズ客船の寄港増加や、国際コンテナ貨物の取扱量が過去最高を記録したことなどを背景に、物流・人流の重要拠点として大型客船専用岸壁、クルーズ旅客ターミナル、新コンテナターミナル等が整備されました。

また、平成30年度に実施した「広域的な物流・観光等調査研究」において、産業面、観光面での経済波及効果が年間1,362億円に及ぶとする調査結果が報告され、八代港と八代・天草シーラインが一体となり、国内と東アジアを結ぶゲートウェイとして相乗効果をもたらすことが期待されます。

加えて、令和元年に開催した「八代・天草架橋建設促進総決起大会」の成功や、八代・天草シーラインの実現を求める署名が4万人に達するなど、これまでになく、地元の機運が高まってきております。

これを受けて、令和3年2月に熊本県知事をトップとする「八代・天草シーライン建設促進協議会」が設立されるとともに、同年6月に熊本県が策定した「新広域道路交通計画」及び7月に国が策定した「九州地方新広域道路交通計画」に、八代・天草シーラインが構想路線として位置づけられるなど、八代・天草シーラインの実現に向け、力強く、大きな一歩を踏み出したところです。

このように、八代・天草シーラインの実現は、災害時における緊急輸送道路や代替路として国土強靱化の一環をなすものであるとともに、救急医療活動の向上、地域住民の安全・安心の確保の観点からも必要不可欠なものであり、九州縦貫自動車道（八代IC）及び八代港と熊本天草幹線道路（上天草市）とを結ぶ新たな物流・人流のネットワークとして多方面における地域活性化の礎となり、熊本県内のみならず、九州東岸軸と西岸軸を結ぶ広域道路ネットワークを飛躍的に強化し、我が国全体の活力向上に大きく寄与するものです。

また現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの大型クルーズ客船の寄港がない状況が続いており、インバウンド需要もなく、地域経済は大きく落ち込んでいる状況ですが、八代・天草シーラインは、コロナ鎮静化後の地域経済のみならず、九州の未来に大きな希望をもたらすものであります。

つきましては、下記の事項について特段の御高配を賜りますようお願いいたします。

記

1. 災害に強い地域づくり及び八代海圏域、ひいては九州全域の広域的振興のために不可欠な八代・天草シーラインの早期実現を図ること
2. 九州縦貫自動車道（八代IC）及び八代港と熊本天草幹線道路（上天草市）を結ぶ八代・天草シーラインを軸とする新たな広域道路ネットワークの形成を図るため、事業化に必要な調査・検討に早急に着手すること

令和4年11月

八代・天草シーライン建設促進期成会

会長 八代市長 中村 博生

八代・天草シーライン建設促進市議会議員連盟

会長 八代市議会議長 成松 由紀夫

八代・天草シーライン建設促進民間協力期成会

会長 杉本 隆之

天草・八代シーライン建設促進民間期成会

会長 田島 章